



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2014. 11. 01
第 64 号

今年度の聖句 あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯。 詩篇 119 編 105 節

広島女学院中高の グローバル教育について

広島女学院中学高等学校 校長 星野晴夫

同窓会東京支部の皆様、今日は。125周年にお邪魔してから約3年になりますが、誌上で再びお会いできます事、嬉しく思っております。

台風18号と19号の間を縫って、高2の沖縄修学旅行・中3の長崎研修旅行が10日に無事終わりほっとしていますが、大きな土砂災害の後でもあり、連続する大型台風来襲に大きな被害が出なければよいと案じているところです。

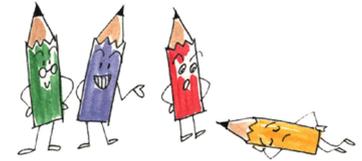
今年3月に中高は文科省からSGH=スーパーグローバルハイスクールの認定を受けました(学院報第173号・巻頭言参照)。これへの応募を考えていた段階で外部の方に意見を求めたところ、女学院の人権・国際・平和教育をもってSGHに応募すべきだとの意見をいくつも頂きました。省みれば、創立者砂本先生とゲーンズ先生が伝えてくださった信仰の姿勢=人間を超えた存在の前にある者としての謙遜さと使命感、を学院の変わらない土台として、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい。」の聖句にあるように、先人の先生方は女学院教育の社会的使命を感じて教育を進めて来られました。特に原爆被災の経験の中から平和教育が真剣に取り組みされてきました。高校では県外から広島を訪れる高校生にボランティアとして被爆の実態を伝える「碑巡り案内」が32年以上続けられていますが、これは生徒が自分の口で発信し、自ら考え行動するようになる重要な転換点となりました。現在、高校生は核兵器廃

絶の為の署名活動も行っていますが、外部の人達と接する時、核に対する考えの大きな温度差や違った価値観など多くの



障害にぶつかります。そこからそれぞれの主張の背景にあるものを学んで理解し、粘り強く対話し、異なった社会や文化における違った平和観をも学びながら、論理的に語れることの必要性を学んでいます。今後の世界は行く先が混とんとして、こうすれば大丈夫だという決まった答えはありません。SGHに取り組みながら平和問題を軸に様々な可能性や提案を追及し、世界の人々と幅広く交流する姿勢は、今後卒業してグローバルな社会の中で様々な違った問題に取り組む時にも大きな指針となるでしょう。

SGHでアジアとの交流を考えている中、東京支部ニュースで清水富士子様のミャンマーでの取り組みが知らされ、何かの取り組みができたらとも考えています。同窓生のご協力も頂きながら女学院のSGHを通して生徒一人一人が堅固な土台と、柔軟な対応力を身に付けていくことを願っています。



CUM DEO LABORAMUS

主に用いられて

高井 浩子 (高橋／高 14・大英 14)



今回東京支部より頂いたテーマで思い出すことは、介護保険制度の導入が国民の話題になり始めた頃、東京支部で「介護保険の勉強会」を開催したことです。当時介護保険を取材しているテレビ局の女性ディレクターを講師に、勉強会を発案されたのは山本 元東京支部長でした。その時初めて介護保険制度には、大きく分けてオーストラリア型とドイツ型があり、その制度の違いと、日本はドイツ型に決まったことを知りました。当時はこれから始まる介護保険のことを知っておきましょうと参加したのですが、地域福祉に関わるようになったきっかけは、あの勉強会だったように思います。

◆遠距離介護の経験

私がまだ40歳代だった時、夫の父が脳梗塞で入院、遠距離介護が始まりました。入退院を繰り返しながら、住みなれた自宅での暮らしを支えるために3人の姉と4週間ごとに交代する8日間滞在の日程を組みました。新幹線を通う4年近く、仕事をしながら介護する姉は、円形脱毛症が卵位の大きさになったり、みんなで励まし合っただけの日々でした。

父が亡くなった後、夫の母は、自分はまだ長生きをするつもりだからと子どもたちへの負担を心配して、在宅介護ではなく病院にしてほしいと言っていました。当時の私は、素人介護で送った父のことを考えると、まだ3人いる親の介護に技術が必要と思い、介護ヘルパーの研修を受けました。促成研修ではなかったので、研修には時間がかかりましたが、私の父のときにはとても役立ちました。

2人の父は介護保険のない時代でしたから、家族による介護は珍しいことではありませんでした。介護保険が始まるまで長い間、高齢者の介護は、

有吉佐和子さんの「恍惚の人」にも描かれているように、女性の仕事として主に妻や嫁が担うものでした。



◆転勤族から地域に根ざす暮らし

私は広島女学院で10年間学び、転勤族の夫との結婚で上京しました。東京を中心に仕事に就かない専業主婦のまま浮草暮らしを定年まで続けると思っていた40代後半に、夫の転職で、結婚以来の社宅暮らしから初めて引っ越しのない暮らしに変わりました。もともと順応性はあるほうだったので、生活環境の変化を楽しみながら、地域に根ざ

す暮らしに溶け込むことができました。

初めて東京の下町に住み、大勢の新しい友達が出来ていくなかで、地域の課題も見えてきました。非営利活動に参加し、多民族国家カナダのNPO活動を見る機会を得たりしながら、気が付いたことは、自宅近くの公共施設や公園に、コンビニで買ったおにぎりとお茶を持った高齢者を見かけることでした。また、働いていないお母さんが、子どもを安心して預ける場所に困っていることなどでした。「おたがいさま」が残っている下町の地域でも、単身世帯が増え、古い集合住宅も関係性が薄れていることを知りました。2005年、江東区報で広く呼びかけ、勉強会から始め、大人も子どもも障がいがあっても、ともに過ごす共生型の居場所づくりに取り組むことになりました。NPO法人を設立、同じ屋根の下で、利用したい人の誰も断らないことを理念に掲げ、誰でも利用できる共生型デイサービス施設を開所しました。利用する人も、働く人も地域の人で、地域に働く場を創出することにもなりました。



高齢者も障がい者も子供も一緒に過ごします。

◆高齢者の介護を社会全体で支えあう

介護保険の導入は、従来の老人福祉・老人医療制度による対応に限界があるとして、1997年介護保険法が制定され、2000年に介護保険施行となりました。当時の総人口に占める高齢化率は17.3%でしたが、2013年9月現在推計では25.0%、過去最高の4人に1人が高齢者となりました。

少子・高齢化が進み、社会を取り巻く環境は大

きく変化しています。高齢者支援や子育て支援、若者支援や障がい者支援でも、公的サービスとボランティア、NPO等の活動がますます必要です。

新しい制度が開始して14年が経ち、団塊の世代が65歳となり制度の継続のために2015年介護保険が改正されます。介護の現場では、自治体の取り組みに注目しているところです。



子供は居るだけでボランティア！

江東区で初めての小規模通所介護施設（デイサービス）として「共に生き、共に支え合う地域」をめざした活動を続け、乗り越えられない試練は与えられないと信じての10年でした。

家族の理解を得て、結婚以来初めて就いた役割のために再度大学で学ぶことになったことも、生涯の思い出となりました。次世代に活動のバトンを渡す2015年が、そこまで来ていることに嬉しく、ワクワクしている今日この頃です。



みんなで、「今日やっても機能(昨日)訓練」と、励まし合っの体操です。

パクチーだらけの クリスマスパーティ♪

平田香里（高原/高 47）
小林悦子（土生/高 46）

みなさん、パクチーというハーブをご存知ですか？パクチーは別名コリアンダー、香菜、シャンツァイとも呼ばれ、昔は大手輸入食材スーパーやデパ地下などでしか取り扱いがありませんでしたが、最近では普通のスーパーでも取り扱うところが増えています。パクチーはその独特な香りから「苦手！」な人と「大好き！」な人と意見は真反対に割れることが多く、パクチーが和名で「カムシソウ」と言われるように、あの香りが全くダメ！な方も多いのではないのでしょうか。

とはいえ、東南アジアや南米の料理には欠かせないのがパクチーで、この独特な食材を全てのメニューにとり入れたパクチー料理専門店を世界で初めて！！オープンさせたのが女学院仲間にいたのです。その名もずばり「パクチーハウス東京」。小田急線経堂駅から歩いてすぐという好立地のお店に、同期である私たちが伺ってきました。

経堂駅の改札を出て右側にある農大通りをまっすぐ行くと徒歩3-4分で右側に見えてきます。



当日はオーナーである佐谷恭さんがお出迎えしてくださいました。奥様は広島女学院高校 46 回生、佐谷（旧姓：慶徳）美紀さんです。さっそく美味しくそうなお料理を前にお話を伺ってみました。

佐谷さんはこれまで 50 カ国以上を旅した中で、



飲食を通じて世代や国籍を越えて空間を共有する楽しさを知りました。その経験を元に、パクチーというユニークな食材を中心に人々が交流できる空間を日本で提供しようと考え、2007 年にお店をオープンするにいたりしました。そんな佐谷さんの思いがたくさんつまったお店は貸し切りをせず、相席で知らない人同士が交流できるのが特徴の一つ。実際、私たちも隣に座った人たちと自然に会話が生まれ、笑顔の絶えない時間を過ごすことができました。

佐谷さんオススメメニューは、「ヤンパク」。パクチーのふかふかベッドの上に様々なスパイスで炒めたラム肉がこんもりのっています。



パンチのあるラム肉とパクチーを一緒に食べると、あっさりとして次から次へと箸が進みます。その他、パクチーサラダや魚のすり身とパクチーを混ぜ合わせた少しピリカラなさつま揚げなど、お酒のすすむお料理が目白押しです。ドリンクは、パクチーの種と果物をお酢に漬け込んだ自家製ビネガードリンクがオススメです。ソフトドリンクでもアルコール入りでもOK。私たちはパイナップルビネガーソーダをいただきましたが、ほどよい酸っぱさで後味がさっぱりしました。

佐谷さんが世界中を旅して、世界中の人々とつながる大事さを実感されて作られたパクチーハウス東京は「交流する飲食店」をコンセプトにデザインされたお店です。数ある飲食店の中から、この日、この時、たまたま出会った人かもしれません。一期一会を大切にし、お店での出会いをきっかけに自分の世界が広がるって素敵ですよ。

この支部ニュースを読んでいる私たちは、根っこが「女学院」でつながっている仲間です。私たちも「つながる」を実感したいと思い、忘年会を企画しました。卒業したての大学生から数十年の大先輩方までどなたでもご参加いただけます。ぜひ世代の垣根を越えてつながってみたいと思います。ただし、お店のキャパシティがありますので定員40名様まで、先着順とさせていただきます。

広島女学院同窓会東京支部 クリスマスパーティ♪ 2014

日程:2014年12月14日(日)
時間:11時30分~(受付開始11時)
場所:パクチーハウス東京
会費:3,000円(ドリンクは個別精算)
申込:メールまたは電話で下記まで
gaines_tokyo@yahoo.co.jp
090-3374-5372(平田)
〆切:12月7日(日)



ハイ、パクチー!

パクチーハウス東京

〒156-0052 東京都世田谷区経堂 1-25-18 2F

営業時間: Party Time (毎日) 18:00-23:00

ランチタイム営業無し。

小田急線経堂駅下車。

改札を出て右側の農大通りを3-4分直進。

カレーハウス CoCo 壹番屋向かいのビルの2F
予約は1か月前から受付。

2014 夏雲の集い 報告

7月4日（金）に銀座教会大礼拝堂にて関東ブロック主催の原爆死没者追悼礼拝「夏雲の集い」を持ちました。礼拝は東京支部宗教委員の千代崎満子さんの司会で始まり、広島にご縁のある伊藤大輔牧師から「心に語りかける神」と題した力強いメッセージを頂きました。



その後5階に場所を移し、広島から駆けつけてくださった大矢会長のご挨拶の後、湊晶子学長のお話を伺いました。

東京支部ニュース第63号の巻頭言でも触れていましたが、湊先生は女学校1年生の時に千葉の大空襲で校庭に爆弾が投下され、頭蓋骨陥没の怪我を負いつつも防空壕から助け出されたご経験をお持ちなので、まずその体験談を語っていただきました。

そして、「キリスト教に立脚したりベラルアーツ教

育という点で、東京女子大も広島女学院も同じ」、「女子の権利が認められていなかった時代に日本人男性による女子教育は大変めずらしい」、「女学院について語り継ぐことを使命とと思って赴任した」とお話し下さいました。しかし、女学院大学は3年前から学生数が定員割れしてきていて深刻な状況とのこと。「キリスト教に立脚した女子人格教育の場を失わないため、また、砂本先生がスタートして下さった広島女学院の発展のため、残る生涯を捧げたい。」と熱く語られました。

広島女学院に対する先生のご愛情とそのお働きに心より感謝し、女学院大学の未来と湊先生のご健康を皆で祈らせて頂きたいと思います。

今年度限りで女学院を退職される黒瀬理事長・院長のご挨拶を頂いた後、広島出身の女性シンガーソングライターMetis 作詞・作曲の「アオギリの木の下で」を参加者全員で歌ってヒロシマへの思いを新たにしました。

しばし歓談の時を持ち、千代崎萌子さん（高校62）の伴奏で校歌を歌ってお開きとしました。参加者は、大英5回（高校5回）から高校62回までの53名でした。（坂下）



「心を伝える合唱講座」の報告と 合唱サークルへのお誘い

東京支部ニュース第 63 号でご案内しました東京支部主催の合唱講座は、7 月 12 日（土）に銀座教会福音会センターで、他支部を含む高校 9 回から 33 回まで 25 名の参加を得て開催しました。

石原恵子先生（高校 18）の熱心なご指導の元、発声から始まり、まど・みちお作詞、吉岡弘行作曲の合唱組曲「虫の絵本」から「セミ」を練習しました。合唱は久しぶりという方もありましたが、さすがは讚美歌を歌いなれた女学院生、ちょっと緊張しつつも充実したひとときを過ごし、今後も関東ブロックの合唱サークルとして隔月で年間 6 回の練習をすることとしました。

サークルとしての第 1 回目の練習は 9 月 28 日（日）午後に新宿で行いました。曜日と会場が変わったこともあり、参加者は 16 名でしたが、1 回目より気分もほぐれ、今回の曲「チョウチョウ」

が歌いやすかったこともあって、楽しい練習となりました。



次の練習日のご案内

日 程：11 月 16 日（日）

時 間：午後 1 時～4 時

※その次は来年 1 月 25 日（日）を予定

会 場：JR 中央・総武線

大久保駅（北口）から徒歩 5 分

参加費：1,500 円（1 回）

素敵な歌です。「虫の絵本セミ」、「虫の絵本チョウチョウ」でネット検索して YouTube でお聴きになってみてください。これからも素敵な歌を選んでいきますので、一緒に歌ってみませんか。初めてご参加の方には、楽譜と地図をお送りします。ご連絡をお待ちしています。

連絡先：坂下（TEL/FAX：03-5386-0740）



報告 湊晶子学長 講演

「新渡戸稲造と砂本貞吉—日本のキリスト教女子教育を支えた男だち—」

2014年9月23日に学士会館で行われた新渡戸・南原賞委員会主催のシンポジウム「新渡戸・南原と現代の教養」に参加し、湊晶子学長の講演を聴かせて頂きました。

「1859年、プロテスタント宣教師が来日して以来、多くのキリスト教女子教育の学校が設立されたが、そのほとんどは宣教師か独身女性クリスチャンによって創設されたもので、日本人男性によって設立された女子教育機関は広島女学院と東京女子大学だけ」、「砂本貞吉と新渡戸稲造は、若い日にアメリカに留学をしており、女性の社会や家庭での教育の重要性を認識し、学校を立ち上げて1~2年で女性リーダーにバトンタッチしているという共通点がある」、「二人の渡米の時期が重なっていることから、接点があったのではないかと調べた

いている」、「仕事を持つ女性の意識調査によると、仕事の継続に必要なことは『本人の意志』、管理職になりたくない理由は『知識や経験が不足』というのが群を抜いている」、「女性はブレない自己を確立し、判断力、決断力、切断力と自信を持って自分のキャリアを生きることが大切」、と語られ、そのパワー溢れるメッセージにまたエネルギーを頂きました。(坂下)



みんなの広場

(お便りや振込用紙の通信欄から)

■支部ニュースを読んで女学院時代を思い出しています。歩行困難になり会合に行きたくても出席できませんが、皆様に神のご加護がありますように。
中原 順子 (高女 51)

■敬老のカードを有難うございました。でも、気分的には60歳。高齢者というのは90歳位からでよいと思っています。
寺井 伊都子 (桧垣・高女 52)

■敬老の日のカードを有難うございました。81歳になりましたが、世田谷松沢教会の礼拝に出席して学びの時を持てることを感謝しています。
柏木 惇 (福富・高3)

■敬老のカードを有難うございました。美しい花々のカードは屏風のように窓辺で楽しませてくれています。
小西 恵 (重満・高4, 短大3)

■東京在住期間の方が二倍以上長くなりましたが、心はいつも広島に。支部ニュースを通して女学院の今を楽しく拝見しております。
大之木 都茂美 (高6)

■86歳の主人と二人、何とかぼつぼつやっております。子供たちも近くに居ります。
鬼塚 敦子 (木戸・会友/高女 56)

■敬老のカードを有難うございました。昨年、高校同期会と大学クラス会それぞれで傘寿のお祝いをする事が出来ました。同窓会につながって今あることの幸せをかみしめています。
西尾 操 (赤川・高4, 大英4)

■清水富士子さんのボランティア活動、その力強さに感動しました。これからも頑張ってください。
佐々木 典子 (桑田・高9, 短大8)

■4月にロス在住の同窓生で仏教会の広田先生の奥様に会って来ました。東京に大勢いらっしゃるというご友人にもお会いしたいです。
久保田 裕子 (後藤・高21, 文英3)

■昨年初めて支部の集会に参加し先輩方と交流を持てたことは、生活にも広がりが出て、とても有意義でした。今後とも是非宜しくお願いします。
松岡 理乃 (木沢・高30)

「十三夜」

白井京子（現・瀧口）高23、文英5

たまには東京都内も吟行。江戸川区一之江に東京都指定史跡「一之江名主屋敷」という江戸の建物が残っていて、春のある日、出掛けた。この辺りは、瑞江、春江、一之江と水に関わる地名が多い。

一之江や三百年水湧き続け 白井薔薇

六月、北島三郎さんが新曲「高尾山」を出すにあたり、高尾山薬王院にて歌唱奉納を行い、司会を勤めさせていただいた。

サブちゃんの歌唱奉納梅雨に入る 薔薇

七月には、山梨県清原寮に童子夏合宿。東京で大学生活を送った人なら、必ず一度は行ったことがあると言われたが、私は、広島で大学生活を送った。（そうだなあ、an・anやnon・noに憧れて、そうだ、確かに清原寮のことも載ってたなあ）休みには、東京に憧れて、今も東京支部役員として仲良くしている桜井さんと一緒によく上京した、あの頃が懐かしい、今は、東京の住人だ。

今日からは猛暑ですけど私避暑 立松けい

清里は南に富士山、東は秩父連峰、西は南アルプス、北は八ヶ岳という最高の景勝地。

甲斐駒や虫取り花のあざやかに 薔薇

電線は猪除けや泉湧く //

一度食べたかったジャージー牛のソフトクリームを食べていたら、元TBSお天気キャスター相沢さんから電話があり、元気象庁予報官で、気象協会時代には、私や森田正光さん、相沢さんと「くらしの気象情報」に出演されていた浅野芳さん

が90歳で亡くなられたとのこと。

牧場に黒雲湧いて氷菓食ふ 辻桃子

八月、奥会津只見に吟行、県の文化財である「叶津番所屋敷」に泊まり、夜更けまで句会。

何年も干されし鮭や夏の炉に 薔薇

大ブナが国の界や清水湧く //

畔草を刈る人に告げ寺参り //

毎朝の楽しみ「花子とアン」が終わった。私が住んでいる大田区馬込地区には、かつて馬込文士村があり、村岡花子さんも住んでいて「赤毛のアン」を、翻訳したそうだ。私の家のすぐ近くには川端康成と、石坂洋次郎のこの辺りに住んでいたという看板がある。周りは坂が多く、「陽のあたる坂道」はこの辺りに住んでいたかと思っっている。秋から又々楽しみな「マッサン」がはじまった。八月に帰広したとき、竹原に向いた。道の駅にはマッサンの幟が立ち、かなり盛り上がりがあった。

たまゆらや酒入り氷菓含みいて 薔薇

サイダーの泡旺んなり原爆忌 //

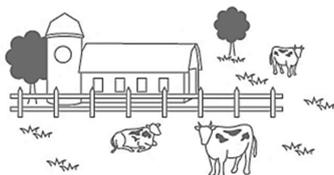
今年はスーパームーンや皆既月食等、楽しめた。

ぬばたまの閑閑け放ち十三夜 薔薇

皆さんからの投句を、お待ちしております。

俳号 白井薔薇（しらいそうび） 俳句結社「童子」同人、日本伝統俳句協会会員

BSジャパン「サブちゃんと歌仲間」に出演中



クリスマス会のお知らせ

12月12日(金) 午後1時半～4時

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会

礼拝(千代崎備道牧師)、パイプオルガン演奏(内海恵子さん)、懇親会

〒181-0011 東京都三鷹市井口 3-15-6 TEL:0422-33-0018

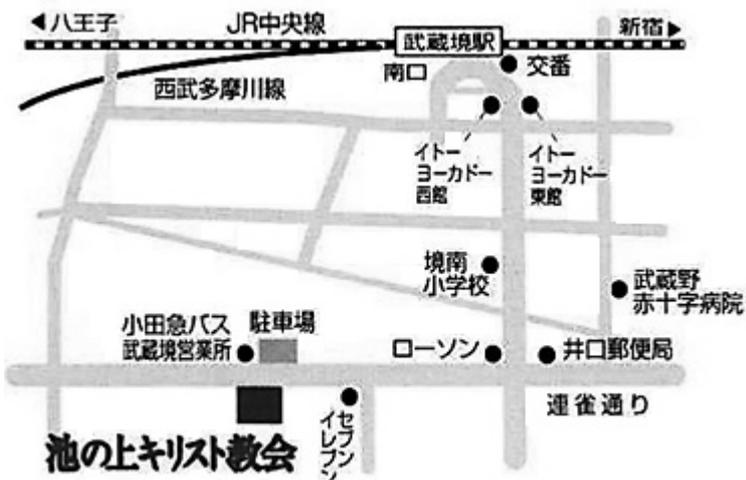
*JR 中央線 武蔵境駅下車 (特快は止まりません)

武蔵境駅南口バス停3番 小田急バス 狛江駅北口行き(境 91)

13:00 発か 13:15 発で武蔵境営業所前下車 (乗車 3分)

*駐車場も利用可

お問い合わせ : TEL/FAX 03-5386-0740 坂下



千葉支部 クリスマス会

12月1日(月) 10時半～

新津田沼教会

礼拝と昼食(会費 1,000 円)

申込み: TEL/FAX 043-266-3342 村中

神奈川支部 クリスマス会

12月3日(水) 1時45分～

横浜情報文化センター7F 大会議室/会費 1,500 円

講演: 日浦美智江さん(臼井・大英 10)

重度の心身障がい者と長く関わって来られた方です

申込み: 090-5801-0920 中村 (メ切 11/15)

《編集後記》

- * 敬老の日(9/15)に因んで、80歳以上の方80名にお祝いのカードをお送りしました。
- * 今年もクリスマス会は、宗教委員の千代崎さんご夫妻が牧師として奉仕をなさっている池の上キリスト教会です。奏楽とパイプオルガンの演奏は、湊晶子学長のご長女の内海恵子さんです。是非、ご参加下さい！
- * 東京支部ニュース第63号の清水富士子さん(高14・大英14)のミャンマーの記事から思いがけない展開！ミャンマーの子供たちと女学院中高の生徒さんとの交流に発展することを願っています。
- * 今年度の東京支部会費未納の方に振替用紙を同封しています。ご協力、よろしくお願いいたします。